

平成26年7月14日

関係機関長および関係各位

京都大学防災研究所長

大志万 直人

教員の公募について

拝啓

時下ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

当研究所は「災害に関する学理の研究及び防災に関する総合研究」を目的とする全国共同利用の研究所であり、5研究部門・6附属研究センターによって構成されています。平成22年度より、「自然災害に関する総合防災学の共同利用・共同研究拠点」に認定され、より広範な共同利用・共同研究を推進しております。

このたび、下記の通り教員を公募することになりました。つきましては、ご多用のところ、まことに恐縮ではございますが、関係各位の皆様方にご連絡いただくとともに、適任者の応募についてよろしくお取り計らい下さいますようお願い申し上げます。

敬具

記

1. **職 種**： 助教
2. **募集人員**： 1名
3. **勤務場所**： 地盤研究グループ 地盤災害研究部門 地盤防災解析研究分野
(所在地：宇治市五ヶ庄)
4. **職務内容**：
地震時の水際低平地の地盤災害、地盤・構造物系の耐震性向上のための研究を、土の非線形モデルに基づく解析的アプローチと遠心力載荷装置等を駆使した実験的アプローチの両面から推進する。さらに、複合材料を含む地盤の力学的挙動解明と、それに基づく総合的研究への展開に貢献する。また、京都大学大学院工学研究科社会基盤工学専攻の教育を担当する予定である。
5. **資格等**： 博士の学位を有すること。
国籍は問わないが、日常的に日本語が使えること。
6. **採用予定年月日**： 平成27年1月1日（または、それ以降できるだけ早い時期）
7. **任 期**： なし
8. **勤務形態**： 専門業務型裁量労働制（週38時間45分相当、1日7時間45分相当）
休日：土・日曜日、祝日、年末年始、創立記念日及び夏季休業日
9. **給与・手当等**： 本学支給基準に基づき支給
10. **社会保険**： 文部科学省共済組合、雇用保険及び労災保険に加入

1 1. **応募方法**： 次の (1)~(6) 各一式

- (1) 履歴書
- (2) 研究業績一覧（査読付き論文とその他の論文、著書、解説、報告などに区分けしたもの）
- (3) 主要論文別刷（コピー可）5編
- (4) 研究業績の概要（A4用紙2枚以内）
- (5) 今後の研究計画及び抱負（A4用紙2枚以内、説明図の利用可：これまでの実績を踏まえてどのような研究を行うか、応募者の考えを示すこと）
- (6) 推薦書（または、応募者について意見を伺える方2名の氏名と連絡先）

1 2. **書類提出先**：

〒611-0011 宇治市五ヶ庄 京都大学防災研究所担当事務室 気付
地盤災害研究部門 地盤防災解析研究分野 助教候補者選考委員会 宛
（封筒の表に「教員応募書類在中」と朱書し、郵送の場合には書留にすること）

1 3. **応募締切**： 平成26年10月14日（火）【必着】

1 4. **選考方法**： 書類選考のうえ、必要に応じて面接を行います。面接等の詳細は、別途連絡します。

1 5. **問い合わせ先**：

〒611-0011 宇治市五ヶ庄 京都大学防災研究所担当事務室 気付
地盤災害研究部門 地盤防災解析研究分野 助教候補者選考委員会 宛
e-mail:apply_staff@dpri.kyoto-u.ac.jp （‘at’を@に置き換えてください）
（封書あるいは電子メールに限る）

1 6. **その他**：

応募書類に含まれる個人情報、選考および採用以外の目的には使用しません。
なお、京都大学は男女共同参画を推進しています。多数の女性研究者の積極的な応募を期待しています。

地盤研究グループと地盤災害研究部門の概要

液状化、地盤沈下、斜面崩壊、地すべり、土壌浸食、および関連する現象の過程とメカニズムの研究を進めるとともに、災害予測と軽減技術の開発を行います。山地から丘陵地の地表変動プロセスの解明と低平地の地盤安定性評価とモデリングの研究を進めます。また、地すべりの現地観測等の実態解明を通じて、災害の発生機構、危険度評価・軽減、地球規模監視システム等の研究を推進すると共に、理工・文理融合研究によって、斜面防災都市を実現するための応用研究を展開しています。地盤研究グループは地盤災害研究部門と、斜面災害研究センターとから構成されています。

1. 地盤災害研究部門の概要

本研究部門では、地盤災害に関連する基礎学理に根ざし、地盤災害の予測と軽減を目指した研究を展開し、さらに、学際領域を分野横断的に開拓しています。関連する学術専門分野は、地盤工学、地質学、地球物理学、地形学、水文学、地球化学、環境工学など多岐にわたる学際的領域となっています。また、地盤災害には、液状化、地盤沈下、斜面崩壊、地すべり、土壌浸食、建設工事に伴う斜面や床盤の変形、地下水の突出、特殊土の変形や流出、地下の都市施設や地下空間の変形・陥没など多くの複雑なメカニズムを持つ現象があります。

さらに、人間の社会活動の拡大によって、地盤災害の発生場も、山地から丘陵の傾斜地、低平地、水際地盤にまで多様化しています。当部門では、このように多様な地盤災害現象の発生と挙動の研究、地盤災害ハザードマップの作成手法と災害軽減手法の開発を主要課題として掲げ、さらに、先進的理工融合横断基礎課題研究と防災研究所内での学際領域研究を進めています。

地盤災害研究部門は下記の3分野で構成されています。

地盤防災解析研究分野

人間活動が集中する大都市平野部における地盤災害に焦点を当て、遠心力載荷実験や数値解析に基づいて、地震時における水際低平地の地盤災害、地盤・構造物系の耐震性向上のための研究を行うとともに、軟弱地盤の長期変形挙動の解明および地盤災害防災対策への応用研究など、幅広い地盤災害問題に関わる研究を推進しています。

山地災害環境研究分野

山地災害の発生ポテンシャルを評価し、災害を軽減するために、例えば岩石の風化、重力による山体の変形、崩壊、侵食、運搬、堆積について研究を進めています。野外での地質・地形調査、リモートセンシング解析、降雨浸透計測、および室内における鉱物や地下水の化学分析などにより、山地災害を長期的地質現象として位置付けた研究を行うとともに、短期間の力学的現象として位置付けた研究を進めています。

傾斜地保全研究分野

斜面環境が及ぼす物質移動過程の変化やそれに伴う斜面地盤の変動など、地盤災害に連鎖する地球科学的諸現象を物理・化学的に理解すること、また、それらに基づいて減災へ寄与するための科学的知見を社会へ還元することを研究の主目的にして、斜面・傾斜地の利用・管理の状態と水・土の動態変化、

水文学・地盤工学・電磁気学の融合による表層崩壊・地すべりの予測手法と斜面監視技術の開発などの研究を行っています。

2. 斜面災害研究センターの概要

地すべり現象の実態を把握し、メカニズムの解明、および災害の予知と軽減のための研究を行っています。研究内容は、主に地すべりの発生機構の解明と広域の斜面災害危険度評価手法の研究です。当センターは地すべりダイナミクス研究領域と地すべり計測研究領域とから構成されています。

3. 現在の教員構成 (2014年7月1日現在)

地盤災害研究部門	【教授】	【准教授】	【助教】
地盤防災解析研究分野	井合 進	飛田哲男	(今回公募)
山地災害環境研究分野	千木良 雅弘	松四雄騎	齊藤隆志
傾斜地保全研究分野	松浦純生	寺嶋智巳	

斜面災害研究センター	【教授】	【准教授】	【助教】
地すべりダイナミクス研究領域	釜井俊孝	(選考準備中)	土井一生
地すべり計測研究領域		末峯 章	王 功輝

共同利用・共同研究拠点 について

個々の大学の枠を超えて、大型の研究設備や大量の資料・データ等を全国の研究者が利用したり共同研究を行う「共同利用・共同研究」のシステム、全国共同利用研究所として、防災研究所は共同利用や共同研究を推進してきましたが、平成20年7月に創設された、文部科学大臣による「共同利用・共同研究拠点」の認定制度により、平成22年度からは、新たに「自然災害に関する総合防災学の共同利用・共同研究拠点」として共同利用・共同研究を推進しています。

なお、京都大学防災研究所の詳細は下記のホームページをご参照下さい。

<http://www.dpri.kyoto-u.ac.jp/>